

中・高等学校 合同

平成28年度

教育研究員報告書

音楽・芸術（音楽）

東京都教育委員会

## 目 次

|     |                                       |    |
|-----|---------------------------------------|----|
| I   | 研究主題設定の理由                             | 1  |
| II  | 研究の視点                                 | 2  |
| III | 研究仮説                                  | 2  |
| IV  | 研究方法                                  | 2  |
| 1   | 基礎研究                                  | 2  |
| 2   | 研究の進め方                                | 2  |
| 3   | 研究構想図                                 | 3  |
| V   | 研究内容                                  | 4  |
| 1   | 思考力・判断力・表現力を高めるための具体的な工夫              | 4  |
| 2   | 思考力・判断力・表現力を高めるための具体的な工夫を<br>生かした実践事例 | 7  |
| VI  | 研究の成果と課題                              | 23 |
| 1   | 研究の成果                                 | 23 |
| 2   | 研究の課題                                 | 24 |

## 研究主題

# 思いや意図をもって表現する力を高める指導と評価の工夫

### I 研究主題設定の理由

平成 20 年 1 月中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（以下「平成 20 年 1 月中教審答申」という。）では、音楽科の改善の基本方針として、「音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成する」、「音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視する」等が示され、その方針の下、学習指導要領（中学校 平成 20 年 3 月・高等学校 平成 21 年 3 月）の改訂が行われた。現在、中学校音楽科及び高等学校芸術科（音楽）では、そのような趣旨を踏まえた授業が展開されている。

しかし、平成 27 年 8 月に公表された中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「教育課程企画特別部会 論点整理」（文部科学省）の補足資料 6 各教科等における改訂の具体的な方向性「音楽、芸術（音楽）に関する現状について」では「音楽を聴いて楽曲の特徴を捉えて言葉で適切に表すことや、音楽表現に対する思いや意図をもち言葉で適切に表すことなど、思考力・判断力・表現力等の育成に一部課題がある」、「言語活動がやや目的化し、音楽表現そのものを高めることや、音楽のよさ等を味わって聴くことが十分でない傾向が見られる。また、子供の工夫した表現や、音楽を聴いて感じ取ったこと等について、子供の学習の充実資するよう、適切に価値付けたり具体的にアドバイスをしたりすることが十分でない傾向が見られる」と指摘されている。また、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（文部科学省 平成 28 年 8 月、以下「審議のまとめ」という。）では、「言語活動の充実、思考力・判断力・表現力等の育成に大きな効果を上げてきた一方で、子供たちが情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていきけるようにするには依然として課題が指摘されている。言語活動を通じて、どのような力を育み伸ばすのかを、より明確にして実践していくことの必要性が浮かび上がっている」と指摘された。

これらを受け、本研究では、中学校音楽科及び高等学校芸術科（音楽）の授業における言語活動や教員による生徒への価値付け等について具体的に検討を行った。その結果、①言語活動を目的化しないために、言語活動によってどのような音楽的な力を高めるのか具体的に、音楽活動と言語活動とを往還させること②題材の計画に、生徒の思考力・判断力・表現力を効果的に育成する場面を適切に設定すること③学習の結果に対してだけでなく、生徒の学習の過程における音楽的な成果に対して教員が価値付けを行うこと、の 3 点が課題として明らかになった。

そこで、本研究では、音楽科の学習において、具体的にどのような思考力・判断力を高めるのかを明確にすること、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する場面を題材の計画に適切に位置付けること、生徒一人一人の学習の過程を見取り、それに基づいて教員が適切に価値付けたり具体的に助言をしたりすることが大切であると考え、研究主題を、「思いや意図をもって表現する力を高める指導と評価の工夫」と設定した。

## II 研究の視点

生徒の思考力・判断力・表現力を高め、思いや意図をもって表現する力を伸ばすために、次の三つの視点から効果的な指導法を検討し、検証授業による実践研究を行う。

- 題材の目標に基づいた、高めるべき思考力・判断力の明確化及び言語活動と音楽活動との往還
- 生徒が感性を働かせ、他者と協働して試行錯誤をしながら音楽表現を生み出す場面や、音楽を聴いてそのよさや価値等を考える場面の設定
- 指導のねらいや手だてを明確にして、感性を高め、思考・判断し、表現する一連の過程を重視した学習指導の実施

## III 研究仮説

題材の目標に基づいて、生徒の高めるべき思考力・判断力を明確にし、言語活動と音楽活動との往還を図り、思考力・判断力・表現力を育成する場면을授業計画に適切に位置付け、意図的・計画的に生徒の学習過程を見取って、生徒の思考に沿って教員が生徒を支援したり、生徒の活動を価値付けたりすることで、生徒一人一人の、思いや意図をもって表現する力を高めることができるであろう。

## IV 研究方法

### 1 基礎研究

次の文献等を基に、音楽科における思考力・判断力・表現力について整理・確認し、思いや意図をもって表現する力を高めるための授業改善について研究・協議を行った。

- ・「中学校学習指導要領解説 音楽編」文部科学省
- ・「高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編」文部科学省
- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 音楽】」

国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成 23 年 11 月

- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 芸術〔音楽〕】」

国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成 24 年 7 月

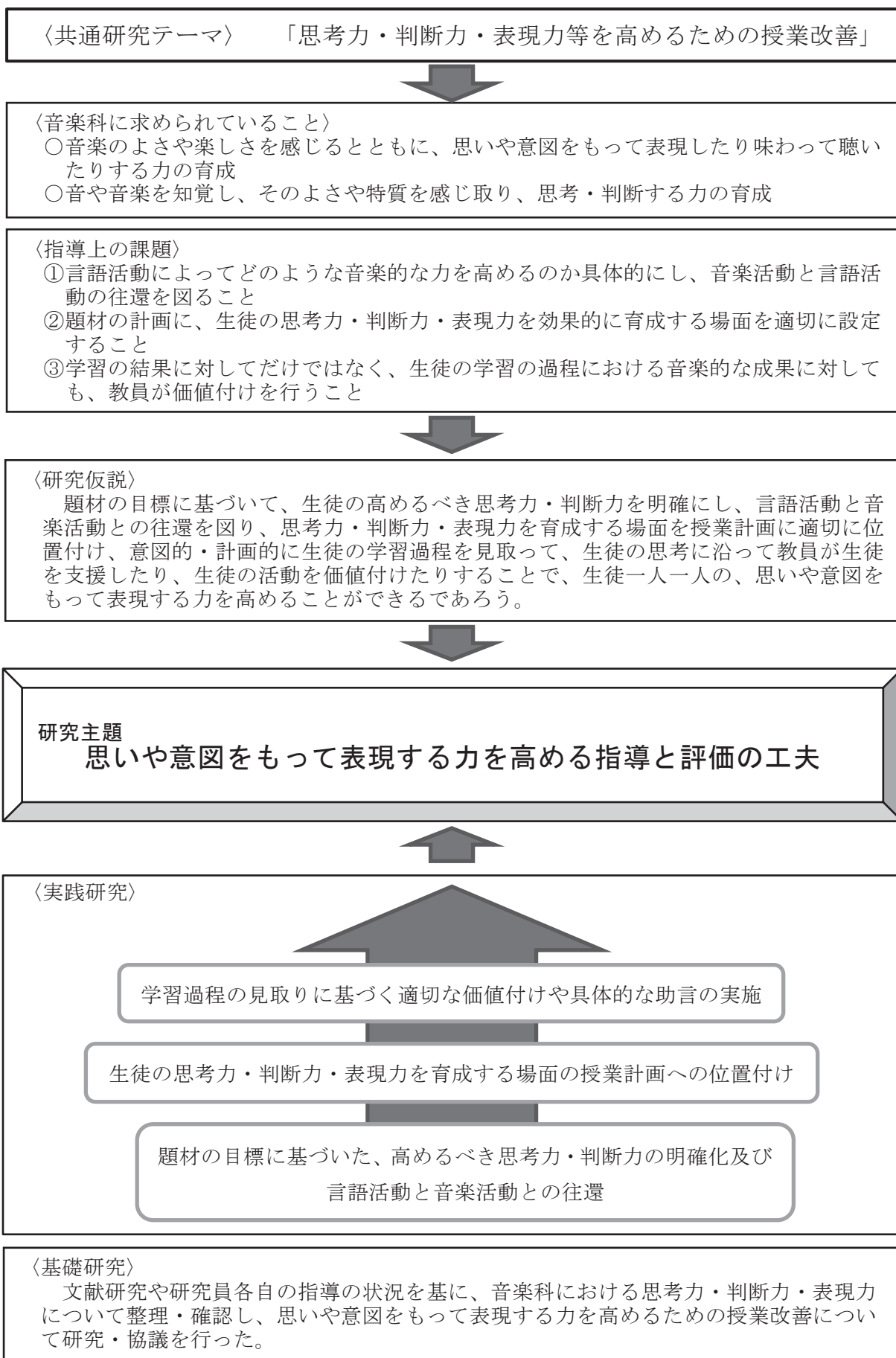
- ・「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」文部科学省 平成 28 年 8 月
- ・「教育課程企画特別部会 論点整理」文部科学省 平成 27 年 8 月
- ・平成 26 年度 教育研究員教育報告書（中学校 音楽部会）
- ・平成 26 年度 教育研究員教育報告書（高等学校 芸術（音楽）部会）

### 2 研究の進め方

文献等及び研究員各自の指導の状況から課題を整理し、それに対する基礎研究を行った。基礎研究を踏まえて、御岳山での宿泊研究会において、題材の目標に基づいて、高めるべき思考力・判断力を明確化し、言語活動と音楽活動との往還を図るための方策や、生徒一人一人の、思いや意図をもって表現する能力を伸ばすための場面の設定、指導の工夫、学習過程を見取る評価の工夫について協議し、授業改善のポイントを見いだした。その上で、検証授業において、生徒の思考力・判断力・表現力を効果的に高める指導であるか検証を進めた。



### 3 研究構想図



## V 研究内容

### 1 思考力・判断力・表現力を高めるための具体的な工夫

中学校学習指導要領総則の教育課程編成の一般方針では「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力をはぐくむ」とされている。また、同じく総則において、指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項について「各教科等の指導に当たっては生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を重視すること。」と示されている。高等学校学習指導要領においても、ほぼ同様の内容が示されている。

以上のような学習指導要領の内容にのっとり、本研究では、思考力・判断力・表現力を高めるために、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動及び言語活動を工夫することとした。具体的な工夫は、研究の視点に沿って検討した。

#### (1) 題材の目標に基づいた、高めるべき思考力・判断力の明確化及び言語活動と音楽活動との往還

研究主題設定の理由で示した通り、音楽科の授業における言語活動の課題は、次の2点であると捉えた。

①言語活動を通じて、どのような音楽的な力を育み伸ばすのかを、より明確にして実践を行うこと。

②言語活動と音楽活動との往還を図ること。

本研究では、まず、①の課題を受け、音楽の授業における思考力・判断力について吟味し、題材の目標から、その題材で高めたい思考力・判断力を明確にして検証授業を実施することとした。それによって、言語活動そのものが目的化してしまうことなく、音楽からの知覚・感受を支えに、生徒の思考力・判断力を効果的に高める言語活動を実施できると考えた。

また、②の課題を受け、言語活動が音楽活動に結び付かなければ、音楽の授業における言語活動としては不十分であると考え、言語活動の際には、音楽を伴いながら試行錯誤するよう授業を計画した。

言語活動の充実は、思考力・判断力・表現力の育成に資するばかりでなく、主体的・対話的で深い学びにもつながるものである。本研究では、そのような視点ももちつつ研究を進めた。

「芸術ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」（文部科学省 平成28年8月）では、中学校音楽科において主体的な学びが実現するためには、「音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させることが重要」、「音楽表現を創意工夫して音楽で表現したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする過程で持ったイメージや感情の動きを振り返り、音や音楽が自分の感情及び人間の感情にどのような影響を及ぼしたのかを考えることが、学んでいること、学んだことの意味や価値を自覚することとなる」と示されている。そこで、本研究における鑑賞の授業では、音楽を聴いて感じたことについて、なぜそのように感じるのかを音楽の諸要素と結び付けられるように考えさせる言語活動を行った。創作の授業では、イメージをどのように音楽で表現するか考えたり話し合ったりする言語活動を行った。

また、対話的な学びの実現のためには、「音楽表現をしたり音楽を聴いたりする過程において、互いに気付いたことや感じたことなどについて言葉や音楽で伝え合い、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことについて共感したりすることが重要である」と示されている。本研究では、実践研究において、生徒各自の活動だけでなくペアやグループでの活動を計画し、その中で、生徒が自分の思いを言葉で表現したり、互いの考えを共有したりする経験や、音楽を伴いながら試行錯誤する経験を積み重ねることで、対話的に考えを深めることができるように工夫した。

このことは、深い学びの実現に向けて述べられた、「知覚・感受したことを言葉や体の動きなどで表したり比較したり関連付けたりしながら、要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感したりする活動を適切に位置付ける。このことが、曲想と音楽の構造や背景との関わり及び音楽の多様性などの音楽文化について理解することや、どのように音楽で表すかについて思いや意図を持つこと、また楽曲の特徴や演奏のよさや美しさ、自分にとっての音楽の意味や価値は何かなどの価値判断をすることに関する思考・判断を促し、深めることにつながる」との内容とも重なっている。

以上のように、主体的・対話的で深い学びの実現も視野に入れつつ、言語活動を通してその題材で高めたい思考力・判断力を明らかにし、言語活動と音楽活動との往還を学習指導に位置付け、実践研究を行った。

## (2) 生徒の思考力・判断力・表現力を育成する場面の授業計画への位置付け

本研究では、生徒の思考力・判断力を高めるための具体的な活動を意図的・計画的に授業計画に位置付けた。生徒が、感性を働かせ、他者と協働して試行錯誤をしながら音楽表現を生み出す場面や、音楽を聴いてそのよさや価値等を考える場면을題材の計画に適切に位置付け、試行錯誤等を通じて思いや意図を深めることで、生徒の思考力・判断力・表現力が効果的に高められると考えた。

既に述べたように、思考力・判断力・表現力を高めるためには、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を工夫する必要がある。「平成20年1月中教審答申」では、学習活動の類型として「習得・活用・探究」という考え方が示され、各教科では、基礎的・基本的な知識・技能を習得するとともに、知識・技能を活用する学習活動を行い、生徒に思考力・判断力・表現力を身に付けさせ、総合的な学習の時間を中心とした探究活動へと発展させるとされている。また、これらの学習の基盤となるのは言語に関する能力であり、そのために各教科等で言語活動を充実することも述べられている。

そこで、本研究では、「審議のまとめ」を基に、習得・活用について次のように解釈し、題材の計画に位置付けた。

- ・「習得」 生徒が音楽活動を通して、音楽を形づくっている要素を知覚し、感受して、音楽的な特徴と、音楽によって喚起される自己のイメージや感情、音楽の背景などと関連付ける。
- ・「活用」 表現領域の学習では、音楽表現について創意工夫し、音楽表現に対する思いや意図をもち、音楽で表現できるようにする。鑑賞領域の学習では、音楽のよさや美しさなどについて自分なりの考えをもち、味わって聴くことができるようにする。

また、授業で学習した内容を価値付け、次の学習につなげるため、題材の終わりに「振り返り」を位置付けた。

そのような「習得・活用・振り返り」の題材計画の下、思考力・判断力・表現力を育むための場面として、表現活動では、生徒が思いや意図をもって音楽表現をするために必要な技能を身に付けながら様々に試行錯誤をする場面を位置付けた。鑑賞領域では、生徒が見いだした音楽の面白さやよさについて言葉で説明したり批評したりしながら価値判断させる場面を設定した。

生徒が思いや意図をもって音楽表現をするために必要な技能を身に付けながら様々に試行錯誤を行う場面としては、例えば箏<sup>そう</sup>を用いた創作では、箏<sup>そう</sup>の基本的な奏法を身に付け、ペアで創作したい音楽のイメージを膨らませ、どんな技法を用いて表現すると自分たちのイメージに近づくか、音を出して試しながら創作する場面を設定した。また、生徒が見いだした音楽の面白さやよさについて、言葉で説明したり批評したりしながら価値判断させる場面としては、映画音楽の鑑賞では、音楽を形づくっている要素に着目し、音楽がもたらすイメージについて、なぜそう感じたのか仮説を立て、検証方法をグループで話し合う場面を設定した。

### (3) 学習過程の見取りに基づく適切な価値付けや具体的な助言の実施

平成22年3月の中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」では、思考・判断・表現について、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、言語活動等を通じて、思考・判断の過程を含めて評価するものであることに留意する必要があるとしている。

そこで、本研究では、思考力・判断力・表現力について、思考・判断の過程を含めて評価するために、生徒一人一人の学習の過程や言語活動の状況を適切に見取って、意図的・計画的に価値付けたり具体的に助言したりすることとした。そのために、実践研究では生徒の思考に沿ったスモールステップを設定して授業やワークシートを構成し、見取りにつなげる計画を立てた。また、毎時間、学習の見通しを指導者と生徒とで共有する場面を設定した。

さらに、生徒の考えがどのように変容したか、指導者が観察した事実とワークシートとを合わせて、その過程を見取ることを試みた。表現領域の学習では音楽表現の創意工夫、鑑賞領域の学習では鑑賞の能力の評価がCになりそうな生徒には、「言語活動を活発に行っているか」、「知覚・感受に基づいて言語活動を行っているか」の2点を軸に観察を行い、つまずきの原因を明らかにし、適切な指導や助言に生かすこととした。

## 2 思考力・判断力・表現力を高めるための具体的な工夫を生かした実践事例

### (1) 中学校実践事例 1

① 題材名 リズムを生かし、構成を工夫して音楽をつくろう（中学校第1学年）

② 題材の目標

- ・リズムと、リズムの反復・変化・対照などの構成に関心を持ち、音楽表現を工夫して簡単なリズムをつくる学習に主体的に取り組む。
- ・リズムの反復・変化・対照などの構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのようにリズムを創作するか、思いや意図をもって工夫する。
- ・リズムの反復・変化・対照などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能（課題に沿った音の組合せ方、記譜の仕方など）を身に付けて音楽をつくる。

③ 学習指導要領との関連

【A表現】(3)創作イ「表現したいイメージを持ち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること」

〔共通事項〕 リズム、構成

④ 題材の評価規準

| 音楽への関心・意欲・態度  | 音楽表現の創意工夫   | 音楽表現の技能  |
|---|---|--|
| ①リズムと、リズムの反復・変化・対照などの構成に関心を持ち、知覚・感受しながら、音楽表現を工夫して簡単なリズムをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 | ①知覚・感受しながら、表現したい音楽のイメージを持ち、リズムの反復・変化・対照などの構成を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 | ①リズムの反復・変化・対照などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能（課題に沿った音の組合せ方、記譜の仕方など）を身に付けて音楽をつくっている。 |

⑤ 指導観

ア 題材観

生徒が中学校で初めて体験する創作活動として、身近な表現方法である手拍子を用いたリズム創作を取り上げた。小学校での学習内容とのつながり等を考慮し、スモールステップの第一歩としてふさわしい題材と考え、設定した。

なお、本題材で育む思考力については「一番おもしろいリズムを探して試行錯誤する力」、判断力については「このリズムをこうつなげたいという思いや意図をもつ力」と捉えた。

イ 生徒観

本実践を計画するに当たり、小学校での音楽づくりの学習経験について事前調査を行った。その結果、出身小学校によって経験の様態が大きく違うことが分かった。「トライアングルやカスタネットを使って自分がつくったリズムを様々な楽器で演奏した」、「先生のギターに合わせてクラスの歌をつくって歌った」等、具体的な活動を記述している生徒が一部にいる一方で、大半の生徒は、音楽づくりを行ったかどうか分からない、と答えた。

以上の結果から、どの生徒も課題をもって取り組める実践を行う必要があると考えた。グループで簡単なリズム創作を行う中で、友達と協力する中で生まれた表現を取り入れながら、互いの思いや意図を伝え合い、学習を深めさせたい。



⑥ 題材の指導計画（全3時間扱い）

| 時         | 過程  | ◆ねらい<br>○学習内容<br>・学習活動   | 評価規準（評価方法）   |
|-----------|---|--|--|
| 1         | ◆音楽表現を工夫しながら、思いや意図をもって簡単なリズムをつくる学習に、主体的に取り組む。<br><br>【習得】<br><br>【活用】 | ○リズムの練習を行う。<br>・共通課題として提示するリズムに言葉を付けて練習する。<br><br>○個人でリズムを創作する。<br>・教師の例示後、個人で創作する。<br>・リズムとその工夫をグループ内で共有する。 | ・リズムと、リズムの反復・変化・対照などの構成に関心をもち、知覚・感受しながら、音楽表現を工夫して簡単なリズムをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。【関-①】（観察）<br>・知覚・感受しながら、表現したい音楽のイメージをもち、リズムの反復・変化・対照などの構成を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。【創-①】（ワークシート・チェックシート） |
| 2<br>（本時） | ◆反復・変化・対照などの構成に関心をもち、音楽表現を工夫しながら、思いや意図をもってリズムをつくる。<br><br>【活用】        | ○グループでリズムを創作する。<br>・始め方と終わり方の工夫も考える。<br><br>○中間発表<br>・特に工夫したところを中心に発表し、共有する。                                 | ・リズムと、リズムの反復・変化・対照などの構成に関心をもち、知覚・感受しながら、音楽表現を工夫して簡単なリズムをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。【関-①】（観察）<br>・知覚・感受しながら、表現したい音楽のイメージをもち、リズムの反復・変化・対照などの構成を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。【創-①】（ワークシート・チェックシート） |
| 3         | ◆反復・変化・対照などの構成を生かしてつくったリズムを、必要な技能を身に付けて表現する。<br><br>【まとめ・振り返り】        | ○グループ別発表<br>・他のグループに向け、自分たちの取組を発表する。<br>・全体で学習を振り返り、価値付ける。   | ・リズムの反復・変化・対照などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能（課題に沿った音の組合せ方、記譜の仕方など）を身に付けて音楽をつくっている。【技-①】（観察・ワークシート・チェックシート）   |

⑦ 本時（全3時間中の第2時間目）

○本時の目標

音楽表現を工夫しながら、思いや意図をもって簡単なリズムをつくる学習に、主体的に取り組む。

○本時の展開

|             | ○学習内容<br>・学習活動   | ・指導上の留意点  | 評価規準（評価方法） |
|-------------|--|---|------------|
| 導入<br>（10分） | ○本時の学習への見通しをもつ。<br><br>○音符や休符について復習する。<br>・簡単なリズムの模倣を行う。 | ・前時の学習の確認を行う。<br>・本時はグループでリズム創作すること、「自分からすすんで学習に取り組むこと」、「表現したい音楽のイメージをもって、リズムを工夫してこう音楽をつくりたい、という思いや意図をもつこと」がめあてであることを伝える。<br>・本時の学習につなげる視点で音符や休符について復習する。 |            |

|                      |  |   |  |
|----------------------|--|---|--|
| <p>展開①<br/>(15分)</p> | <p>○共通課題（前半のリズム）を全体で練習する。<br/>○教師の例を聴き、どのようなリズムをつくるのかイメージをもつ。</p> <p>○個人でリズム創作を行う。<br/>・どのようにつくりたいのか、個人で考えて創作する。</p> <p>○班内で発表し合う。<br/>・自分のつくったリズムを班で発表する。工夫した部分を共有する。</p> | <p>・三つのパターンを例示する。<br/>ア 共通課題の最後の拍を変えた（似ている感じのリズム）<br/>イ 共通課題とは全く違う（違う感じのリズム）<br/>ウ 共通課題の1～2拍目又は3～4拍目を変えた（その他のリズム）</p> | <p>リズムに関心を持ち、知覚・感受しながら、音楽表現を工夫して簡単なリズムをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。【関-①】（観察・ワークシート）</p>       |
| <p>展開②<br/>(15分)</p> | <p>○グループでリズム創作を行う。<br/>・個人の作品を基に話し合っ、班の作品をつくる。</p> <p>○班ごとに進行状況を発表する。<br/>・特に工夫したところを中心に発表する。</p>  | <p>・机間指導を行いながら生徒の状況を見取り、指導・助言する。</p>  | <p>知覚・感受しながら、表現したい音楽のイメージを持ち、リズムを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。【創-①】（観察・チェックシート）</p> |
| <p>まとめ<br/>(5分)</p>  | <p>○本時の振り返り</p>  | <p>・本時の学習を振り返り、価値付ける。</p>   |  |

⑧ 実践の成果と今後の課題

【題材の目標に基づいた、高めるべき思考力・判断力の明確化及び言語活動と音楽活動との往還】

- ・学習を計画する段階で、言語活動を通じて育む力を明確にしたことにより、何のために言語活動を行うかが明らかとなり、授業における言語活動の位置付けを指導者が常に意識して実践を行うことができた。
- ・言語活動と音楽活動との往還を図ることについては、うまくできたグループとうまくいかなかったグループがあり、課題が残った。

【生徒の思考力・判断力・表現力を育成する場面の授業計画への位置付け】

- ・「習得・活用・振り返り」の過程に沿って授業を計画することにより、知覚・感受を支えとした実践を展開することができた。

【学習過程の見取りに基づく適切な価値付けや具体的な助言の実施】

- ・生徒の思考に沿ってスモールステップを重ねる授業を計画したが、場面によっては、ワークシートに何を書くのか分からない生徒がいた。生徒の実態に応じたスモールステップを丁寧に設定することが必要であった。また、ワークシートから生徒の考えの変容を適切に見取ることには課題が残った。
- ・ワークシートの記述と観察を分析した結果、評価がCとなる要因は、主に、リズムに不慣れであるため知覚・感受が十分できていないこと、興味・関心がわいていないことの2点であると考えた。知覚・感受が十分できていないと思われる生徒には、知覚の前提となるリズム練習を行い、それから感受を促した。興味・関心を喚起することが必要な生徒には、

言葉のリズムを活用して意欲を喚起したり、活動のきっかけとなるような個に応じた声掛けを行ったりして、支援した。

- ・このような工夫により、多くの生徒が、知覚・感受した事柄を言葉に表し、思いや意図を明確にしながらか学習に取り組んだ。このことは、生徒の思考力・判断力・表現力を育む原動力となったと感じている。

## (2) 中学校実践事例 2

① 題材名 イメージをもたらす音楽の秘密を探ろう (中学校第1学年)

② 題材の目標

音楽を形づくっている要素と楽曲との関わりや、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受する学習に主体的に取り組む、音楽を聴いて知覚・感受したことを、根拠と共に言葉で説明し、音楽のよさや美しさを味わう。

③ 学習指導要領との関連

【B鑑賞】(1)鑑賞ア「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと」

〔共通事項〕 音色、リズム、速度、強弱

④ 題材の評価規準

| 音楽への関心・意欲・態度   | 鑑賞の能力  |
|--|--|
| ①楽器の音色、リズム、速度、音の高低、強弱と曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 | ①楽器の音色、リズム、速度、音の高低、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受している。<br>②知覚・感受しながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明したりしながら、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 |

⑤ 指導観

ア 題材観

本題材は後期になって初めて取り組む鑑賞領域の学習である。本題材における「音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴く活動」とは、楽曲から感受したことが、音楽を形づくっている要素とどのように関わっているのかを考えて聴く活動である。

なお、本題材で育む思考力については「楽曲から感受したことが、音楽を形づくっている要素とどのように関わっているのかを探して試行錯誤する力」、判断力については「知覚・感受したことから、楽曲の特徴やよさを判断する力」と捉えた。

イ 生徒観

生徒は、入学以来、「春 第1楽章」「魔王」の2曲を授業で鑑賞する中で、作曲者の意図や音楽の様式的な特徴などを理解し、感じたことや考えたことを言葉で説明する活動を積み重ねてきた。今回は、楽曲を聴いて感じたことに対して、なぜそう感じるのかに注目させ、音楽を形づくっている要素を根拠に言葉で説明できるようにさせたい。

全員が活発に活動できるよう、グループ編成に留意するとともに、生徒の発言を指導者がうまく捉えて、価値付けたりアドバイスをしたりしながら、授業を進めていく。



⑥ 題材の指導計画（全2時間扱い）

| 時         | 過程  | ◆ねらい ○学習内容 ・学習活動   | 評価規準（評価方法）  |
|-----------|---|--|---|
| 1<br>(本時) | ◆楽曲を聴いて感受したことに対して「なぜそう感じたのか」を探る。              |  |   |
|           | 【習得】  | <p>○音楽が、映画のストーリーやイメージに大きく関わっていることを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ジョーズ」の映画の同じ場面を、音楽を代えて鑑賞し、感じたことをワークシートに記入する。</li> </ul> <p>○音楽がもたらすイメージについて、なぜそう感じたのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じた理由を個人で考え、ワークシートに記入する。</li> <li>・グループで個人の考えを共有する。</li> <li>・「なぜそう感じたのか」についてグループで仮説を立て、それを検証する方法を考える。</li> <li>・仮説と検証方法をグループごとに発表する。</li> </ul> | <p>楽器の音色、リズム、速度、音の高低、強弱と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。【関-①】（観察・ワークシート）</p> <p>楽器の音色、リズム、速度、音の高低、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。【鑑-①】（ワークシート）</p>                                  |
| 2         | ◆楽曲を聴いて感受したことを、音楽を形づくっている要素を根拠にして、他者に言葉で説明する。 |  |   |
|           | 【習得】<br><br>【活用】<br>【まとめ・振り返り】                | <p>○楽曲を聴いて感じたことの根拠を、音楽を形づくっている要素から説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮説をグループで検証する。</li> <li>・検証結果をグループごとに発表する。</li> </ul> <p>○他の曲を聴いて感受したことを、学習の成果を生かして言葉で説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイコフスキーの「くるみ割り人形」から気に入った1曲を選び、音楽を形づくっている要素を根拠に、楽曲のよさを考える。</li> <li>・個人の意見をグループで発表し合う。</li> </ul>   | <p>音楽を形づくっている要素と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。【関-①】（観察・ワークシート）</p> <p>知覚・感受しながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明したりしながら、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【鑑-②】（観察・ワークシート）</p> |

⑦ 本時（全2時間中の第1時間目）

○本時の目標

- ・音楽がもたらすイメージについて、なぜそう感じるのか主体的に考える。
- ・音楽が、映画のストーリーやイメージと音楽との関わりを感じ取る。

○本時の展開

|             | ○学習内容 ・学習活動   | ・指導上の留意点  | 評価規準（評価方法）   |
|-------------|---|---|--|
| 導入<br>(10分) | ○本時の学習内容を理解する。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの鑑賞の授業を振り返り、今回の授業で身に付けてほしい力を明示する。「音楽を聴いて○○だと感じる秘密」を探ろう。</li> <li>・音楽が代わると感じるイメージも大きく変わること気付かせ、学級全体で共有させる。</li> <li>・なかなか書けない生徒には、言葉の使い方等にはこだわらず、まずは感じたことを書き出せるように支援する。</li> </ul> | <p>楽器の音色、リズム、速度、音の高低、強弱と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。【関-①】（観察・ワークシート）</p> |
|             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてと授業の流れを知る。</li> </ul> <p>○映画のストーリーやイメージと音楽との関わりを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ジョーズ」の映画の同じ場面を、音楽を代えて鑑賞し、感じたことをワークシートに記入する。</li> </ul> <p>ア 映像のみ</p> |   |  |

|                      |  |   |   |
|----------------------|--|---|---|
|                      | イ「ジョーズのテーマ」<br>ウ「ブラジル」<br>エ「スターウォーズのテーマ」   |   |   |
| 展<br>開<br>(25分)      | <p>○音楽がもたらすイメージについて、なぜそう感じたのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一度音楽を鑑賞し、感じた理由を個人で考える。</li> <li>・グループで個人の考えを共有する。</li> <li>・「なぜそう感じたのか」についてグループで仮説を立て、それを検証する方法を考える。</li> <li>・役割を決める。(司会、タイムキーパー、発表者)</li> <li>・教師による説明を聞く。</li> </ul> <p>・個人の意見を全員で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとにCDデッキとCDを借り、音楽を確認しながらグループの仮説を考える。</li> <li>・仮説の検証方法を考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「感じたこと」に対して、「○○から」というフレーズを付け足せるようにする。作業が滞っている生徒には、机間指導で支援する。</li> <li>・役割分担に時間がかからないよう、時間を区切って行わせる。</li> <li>・「○○さんは、高い音の鋭い音色が怖く感じる理由だと考えました。それを検証するために、その音をタンバリンに代えて試してみることにしました。」と、仮説と検証方法の例を提示し、見通しをもたせる。</li> <li>・順番に発表させ、ワークシートの「グループで考えよう」の欄に記入させる。複数書いた生徒は一つを選んで記入させる。</li> <li>・具体的に楽曲のどの部分のことを言っているのかを適宜再現しながら、全員で共有できるようにする。</li> <li>・グループの進行を把握するとともに、個々の関わり方を記録する。</li> </ul> | <p>楽器の音色、リズム、速度、音の高低、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。【鑑-①】(ワークシート)</p> |
| ま<br>と<br>め<br>(15分) | <p>○仮説と検証方法をグループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フリップを使い、発表者が順番に発表をする。</li> <li>・他のグループの発表の内容をワークシートに記録する。</li> </ul> <p>○本時を振り返る。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちのグループと違う意見や、興味深いと思った意見について記録するよう指示する。</li> <li>・「音楽を聴いて○○だと感じる秘密」について、個人やグループで考えを深めることができたか振り返らせる。</li> </ul>   |   |

【資料】

○第1時間目(本時)に取り組むワークシート(1)

- ・楽曲を聴くたびに、スモールステップで言語表現の充実が図れるようにした。
- ・グループのメンバーの意見を聞き、ワークシートに記録することで、互いの意見を交流させながら、自己の考えを深められるようにした。

e1年生 音楽プリント

## 映画音楽の秘密

1年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

**聴いてみよう♪：1回目** ☆曲に注目してどんな曲が感じてみよう！  
♪どんな感じがしましたか？

.....！みんながそう感じた「理由」は何だろう？なぜそう感じたのかを考えてみよう！

☆他の曲に合わせて同じ映像を観たら、どのように感じましたか？  
♪違う曲①.....  
♪違う曲②.....

**聴いてみよう♪：2回目** ☆なぜそう感じたのかの「なぜ」を見つけよう！  
♪1回目鑑賞したときのように感じたのはなぜでしょうか？

\_\_\_\_\_から \_\_\_\_\_ 感じた  
\_\_\_\_\_から \_\_\_\_\_ 感じた  
\_\_\_\_\_から \_\_\_\_\_ 感じた  
もっと書ける人は書いてみよう！

「～に感じた」その「理由」を調べてみよう！

➡ 上で考えたことを、グループで共有してまとめてみよう。

---

**グループで考えよう♪** 司会 ( ) タイムキーパー ( )  
発表者 ( ) ( ) ( ) ( )

☆グループでの「仮説」とそれを証明する方法を考えよう！

|                          |  |     |
|--------------------------|--|-----|
| 仮説(例) _____ から _____ 感じた |  | 発表者 |
| →それを証明する方法は・・・ _____     |  | 松本  |
| 班員① _____ から _____ 感じた   |  |     |
| 班員② _____ から _____ 感じた   |  |     |
| 班員③ _____ から _____ 感じた   |  |     |
| 班員④ _____ から _____ 感じた   |  |     |
| 班員⑤ _____ から _____ 感じた   |  |     |

➡ 次回で証明するのは・・・班員 \_\_\_\_\_ の案です。  
証明方法： \_\_\_\_\_

**中間発表の記録♪** 自分たちの班では出なかった意見や、興味深いと思った意見をメモしよう！

|             |              |
|-------------|--------------|
| 【仮説】 _____  | 【検証方法】 _____ |
| グループ： _____ | _____        |
| グループ： _____ | _____        |
| グループ： _____ | _____        |
| グループ： _____ | _____        |
| グループ： _____ | _____        |
| グループ： _____ | _____        |
| グループ： _____ | _____        |

○第1時間目（本時）に取り組むワークシート(2)

- ・音楽を形づくる要素をまとめ、活動の成果が分かるようにした。その上で、学習内容を生かして音楽を聴き、よさをアピールする活動で、題材のまとめができる構成を工夫した。

**最終発表の記録♪**

| グループ  | A=納得<br>B=まあまあ<br>C=もう一歩 | 発表内容・<br>発表を聞いた感想・<br>A～Cを付けた理由 | キーワード |
|-------|--------------------------|---------------------------------|-------|
| 1グループ |                          |                                 |       |
| 2グループ |                          |                                 |       |
| 3グループ |                          |                                 |       |
| 4グループ |                          |                                 |       |
| 5グループ |                          |                                 |       |
| 6グループ |                          |                                 |       |
| 7グループ |                          |                                 |       |
| 8グループ |                          |                                 |       |

**まとめ1** ☆今まで探ってきた「なぜ」のことを

「 \_\_\_\_\_ 」とき

**5つ覚えよう！！**

「 \_\_\_\_\_ 」 「 \_\_\_\_\_ 」  
「 \_\_\_\_\_ 」 「 \_\_\_\_\_ 」  
「 \_\_\_\_\_ 」 「 \_\_\_\_\_ 」

---

**まとめ2** ☆他の音楽を聴いて感じたことを、「○○が△△だから～と感じた」の形で表そう！  
♪組曲「くるみ割り人形」の中からお気に入りの1曲を選んで、「良さ」をアピールしよう！

♪① [ ]  
♪② [ ]  
♪③ [ ]  
♪④ [ ]

《私のお気に入り・・・曲名： \_\_\_\_\_》

○注目した「音楽を形づくっている要素」・・・ \_\_\_\_\_

| 発表者 | A=納得<br>B=まあまあ<br>C=もう一歩 | 発表内容・<br>発表を聞いた感想・<br>A～Cを付けた理由 | 発表者が<br>注目した<br>音楽を形づくっ<br>ている要素 |
|-----|--------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
|     |                          |                                 |                                  |
|     |                          |                                 |                                  |
|     |                          |                                 |                                  |
|     |                          |                                 |                                  |

♪感想♪ \_\_\_\_\_

⑧ 実践の成果と今後の課題

【題材の目標に基づいた、高めるべき思考力・判断力の明確化及び言語活動と音楽活動との往還】

- ・音楽を形づくっている要素と楽曲との関わりや、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取るために、音楽を伴いながら言語活動を行うことによって、生徒は試行錯誤を重ね

ることができた。試行錯誤することで、生徒は様々な視点から何度も考えを深めることができ、理解が深まった。言語活動と音楽活動とを往還しながら、生徒が試行錯誤する場面を意図的に設定することが、効果的であった。

【生徒の思考力・判断力・表現力を育成する場面の授業計画への位置付け】

- ・中学校1年生の学習であったため、習得の過程に重点を置いた。最初は「〇〇に感じた」と書いていた生徒が、「△△なことから〇〇に感じた」→「音楽の諸要素□□が△△なことから〇〇に感じた」と知覚したことを根拠に感受したことを書くことで、生徒の知的好奇心が刺激され、学習意欲につながった。
- ・活用の過程として、チャイコフスキーの「くるみ割り人形」から何曲か選択し、知覚・感受を支えとして鑑賞する活動を行った。習得の過程を生かした学習を展開することができた。

【学習過程の見取りに基づく適切な価値付けや具体的な助言の実施】

- ・ワークシートは、活動の各過程での生徒の考えを見取れるように工夫したことで、生徒の変容や理解度を、授業後に細かく把握し、その後のアドバイスに生かすことができた。しかし、必ずしも生徒の考えの変容の全てがワークシートに反映されているとは限らないので、指導者が視点を明確にして話し合い等を観察し、より適切な指導に生かす必要がある。
- ・ワークシートの今後の改善点としては、生徒自身が活動の節目で学習を振り返り、自分の考えをまとめられるような構成にすることが挙げられる。
- ・評価がCと判断される生徒はいなかった。指導者が想定した水準以上に到達している生徒をいかに伸ばすかが課題である。

(3) 中学校実践事例3

① 題材名 箏<sup>そう</sup>の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう（中学校第1学年）

② 題材の目標

- ・箏<sup>そう</sup>の音色や奏法、平調子による旋律に関心をもち、箏<sup>そう</sup>の特徴を伽倻琴<sup>カヤガム</sup>や古箏<sup>グーチョン</sup>と比較して鑑賞する学習や、箏<sup>そう</sup>の基礎的な奏法などを身に付けて演奏する学習、箏<sup>そう</sup>のための簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組む。
- ・箏<sup>そう</sup>の音色や平調子による旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気や、奏法による響きの違いを感受しながら、どのように演奏するか、旋律をつくるかについて思いや意図をもつ。
- ・箏<sup>そう</sup>の特徴を生かした音楽表現をするために必要な基礎的な技能を身に付けて演奏する。
- ・平調子による旋律などの特徴や、奏法による響きの違いを生かして、簡単な旋律をつくる。
- ・箏<sup>そう</sup>の特徴を伽倻琴<sup>カヤガム</sup>や古箏<sup>グーチョン</sup>と比較して捉え、音色や旋律、奏法等を知覚・感受しながら、そのよさなどを味わって聴く。

③ 学習指導要領との関連

【A表現】(2) 器楽イ「楽器の特徴を捉え、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること」

(3) 創作ア「言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること」

【B鑑賞】(1) 鑑賞ア「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと」

(1) 鑑賞ウ「我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること」

【共通事項】 音色、旋律

#### ④ 題材の評価規準

| 音楽への関心・意欲・態度  | 音楽表現の創意工夫   | 音楽表現の技能   | 鑑賞の能力  |
|---|---|---|--|
| <p>① 箏の音色や奏法、平調子による旋律などの特徴に関心を持ち、伽倻琴や古箏と比較して鑑賞する学習に、主体的に取り組もうとしている。</p> <p>② 箏の音色や奏法、平調子による旋律に関心を持ち、基礎的な奏法を身に付けて、演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>③ 箏の音色や奏法、平調子による旋律の特徴を生かした旋律創作に意欲的に取り組もうとしている。</p> | <p>① 箏の音色や奏法、平調子による旋律などの特徴や奏法による響きの違いを感受しながら、どのように音楽をつくるか思いや意図をもっている。</p> | <p>① 「さくらさくら」の旋律を演奏する技能、及び箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、基礎的な奏法、姿勢や体の使い方を身に付けて演奏している。</p> <p>② 箏の音色や旋律の特徴を生かしながら、自分のイメージに合った音楽表現をしている。</p> | <p>① 音色や旋律、奏法などを知覚・感受しながら、箏の特徴を伽倻琴や古箏と比較して捉え、よさや美しさを味わって聴いている。</p> |

#### ⑤ 指導観

##### ア 題材観

本題材では、アジアの楽器との比較鑑賞や「さくらさくら」の演奏、前奏の創作を通して、箏の音色の美しさや響きの豊かさなど、我が国の音楽のよさを生徒に味わわせる。

鑑賞では、我が国の箏と韓国の伽倻琴、中国の古箏の演奏の一部を視聴し、それぞれの特徴（音色、響き、奏法、旋律等）を比較鑑賞する。それによって箏の特徴を捉え、よさ等を味わって聴く力を身に付けさせる。

また、器楽では、箏の奏法や音色、平調子の美しい旋律を感じながら表現を深め、表現することの面白さを感じ取ることができる教材として「さくらさくら」を取り上げる。実際に和楽器に触れる体験を通して、我が国の音楽をより身近なものとして感じ、楽しむ力を身に付けさせたい。

さらに、箏を用いての創作は、生徒にとって中学校では初めての学習である。そのため、創作では、「さくらさくら」の演奏で感じ取った箏の音色や、身に付けた奏法を生かして、短い前奏を創作することを通して、創作する楽しさや喜びを実感させ、学習を深めたい。

なお、この題材で育む思考力については、「自分のイメージに合う音色や奏法を工夫して試行錯誤する力」、判断力については、「自分たちのイメージを、音楽でこう表したいという思いや意図をもつ力」と捉えた。

##### イ 生徒観

検証授業に当たって、和楽器に関するアンケートを実施した。その結果、ほぼ生徒全員が、和楽器（箏・和太鼓・尺八・三味線）の演奏を実際に聴いた経験をもっていた。箏に触れたことのある生徒は、クラスの1/4程度であった。また、経験の有無にかかわらず、生徒の和楽器に対する興味・関心が高く、箏を実際に演奏したいと思っている生徒が多いことも分かった。しかし、楽器の演奏に苦手意識をもっている生徒もいるため、そのような生徒が本実践でつまづかないよう、発達段階に応じた学習を積み上げさせたい。

この学習を通して、我が国の音楽を見つめ直し、その価値を再確認するとともに、自分たちのイメージをもとに音楽をつくっていくおもしろさを感じてほしい。



⑥ 題材の指導計画（全5時間扱い）

| 次 | 時     | 過程  | ◆ねらい ○学習内容 ・学習活動  | 評価規準（評価方法）  |
|---|-------|---|---|---|
| 1 | 1     | ◆我が国の箏とアジア地域の箏を聴き比べ、それぞれの楽器の特徴を感じ取る。                                |   |   |
|   |       | 【習得】  | ○さまざまな箏の演奏の一部を比較しながら、箏の音色や響き、奏法、旋律等の特徴に関心をもつとともに、よさを味わって聴く。<br>・箏・伽倻琴・古箏の演奏の一部を視聴して、各国のコトの特徴（音色、響き、奏法、旋律等）を比較し、気づいたことや感じたこと、考えたことをワークシートに記入する。  | 箏の音色や奏法、平調子による旋律などの特徴に関心を持ち、伽倻琴や古箏と比較して鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。<br>【関一①】（観察・ワークシート）<br>音色や旋律、奏法などを知覚・感受しながら、箏の特徴を伽倻琴や古箏と比較して捉え、よさや美しさを味わって聴いている。【鑑一①】（観察・ワークシート）        |
| 2 | 2     | ◆箏の基礎的な奏法、姿勢等を身に付け、音色や奏法に関心をもって、「さくらさくら」を演奏する。                      |   |   |
|   |       | 【習得】  | ○箏の基礎的な奏法を身に付ける。<br>・姿勢や手の構えに気を付けて、美しい音色が響くように工夫して演奏する。<br>○楽譜を見て「さくらさくら」を演奏する。<br>・箏の楽譜（縦書きの楽譜）について知り、初歩的な演奏技能を身に付けながら演奏する。<br>・楽器の構えや爪の当て方などを生徒相互でチェックする。<br>○前奏を演奏する。<br>・前奏に用いられている奏法（引き連・流し爪・合わせ爪）を練習し、前奏と「さくらさくら」がスムーズにつながるように演奏する。<br>○いろいろな奏法を探る。<br>・前奏に用いられている奏法以外に、どんな奏法があるかペアで考える。<br>・音を出しながら導き出した奏法を発表する。それぞれの奏法がどのような感じがするかをワークシートに記入する。 | 箏の音色や奏法、平調子による旋律に関心を持ち、基礎的な奏法を身に付けて、演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。【関一②】（観察・ワークシート）<br>「さくらさくら」の旋律を演奏する技能、及び箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、基礎的な奏法、姿勢や体の使い方を身に付けて演奏している。【技一①】（観察・ワークシート） |
| 2 | 3     | ◆箏の音色や奏法、平調子による旋律の特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、表現したいイメージと結び付けて「さくらさくら」の前奏を創作する。 |   |   |
|   |       | 【活用】  | ○「さくらさくら」を演奏する。（復習）<br>・姿勢や手の構えを確認しながら、前時の復習を行う。<br>○桜のイメージや連想される情景をペアで考える。<br>・桜のイメージを膨らませながら、具体的な情景も思い描く。ワークシートに記入し、発表する。<br>○桜のイメージや連想される情景を基に、個人で前奏を創作する。<br>・前時にペアで考えた情景を基に、音で試しながら個人で2小節程度の前奏を創作する。<br>・工夫した点も含め、ペアで共有する。   | 箏の音色や奏法、平調子による旋律の特徴を生かした旋律創作に意欲的に取り組もうとしている。【関一③】（観察・ワークシート）<br>箏の音色や奏法、平調子による旋律などの特徴や奏法による響きの違いを感受しながら、どのように音楽をつくるか思いや意図をもっている。【創一①】（観察・ワークシート）                      |
|   | 4（本時） | 【活用】  | ○個人作品をもとに、ペアで前奏を創作する。<br>・個人作品のよさを生かしつつ、ペアで話し合い、自分たちのイメージにより近付けるような前奏を創作する。<br>○隣り合ったペアと作った作品を発表し合う。<br>・互いのペアの演奏を聴いて、どんな印象をもったかを発表する。  | 箏の音色や奏法、平調子による旋律の特徴を生かした旋律創作に意欲的に取り組もうとしている。【関一③】（観察・ワークシート）  |

|   |                       |   |   |
|---|-----------------------|---|---|
|   |                       |   | 箏の音色や奏法、平調子による旋律などの特徴や奏法による響きの違いを感受しながら、どのように音楽をつくるか思いや意図をもっている【創一①】(観察・ワークシート)   |
| 5 | ◆創作活動の成果を発表し、互いに共有する。 |   |   |
|   | 【まとめ・振り返り】            | ○作品発表会をし、互いの作品を聴き合いながら、よさを見付ける。<br>・説明担当は、自分たちの作品について口頭で発表する。演奏担当は、創作した作品を演奏する。 | 箏の音色や奏法、平調子による旋律に関心をもち、基礎的な奏法を身に付けて、演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。【関一②】(観察・ワークシート)<br>箏の音色や旋律の特徴を生かしながら、自分のイメージに合った音楽表現をしている。【技一②】(観察・ワークシート) |

⑦ 本時（全5時間中の第4時間目）

○本時の目標

箏の音色や奏法、平調子による旋律の特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、表現したいイメージと結び付けて「さくらさくら」の前奏を創作する。

○本時の展開

|             | ○学習内容 ・学習活動  | ・指導上の留意点  | 評価規準（評価方法）  |
|-------------|--|---|---|
| 導入<br>(15分) | ○本時の学習内容を理解する。<br>・本時のめあてと授業の流れを知る。<br><br>○前時にペアで考えたイメージを確認してから、個人で創作した前奏を復習する。<br>・ワークシートに書いてあるイメージや情景、個人で創作した前奏を再確認する。                                  | ・前時までの学習内容を確認する。<br>・本時は「自分たちのイメージに合う音色や奏法を工夫し、ペアで前奏をつくろう」がめあてであると伝える。                                    |   |
| 展開<br>(30分) | ○ペアで前奏を完成させる。<br>・個人で作った前奏の中で一番工夫した点をペアで共有する。<br>・互いの作品のよさを生かしつつ、自分たちがイメージしたものに近付けるように、前奏を創作する。<br><br>○完成した前奏を隣り合ったペア同士で発表し合う。<br>・相手のペアがどんな印象をもったかを発表する。 | ・互いの作品の工夫した点を手掛かりに、自分たちの表現したいイメージがどのように聴き手に伝わるかを意識しながら創作するよう指導する。また、音色や奏法を工夫して、実際に音を出しながら創作を進めていくことも助言する。 | 箏の音色や奏法、平調子による旋律の特徴を生かした旋律創作に意欲的に取り組もうとしている。【関一③】(観察・ワークシート)<br>箏の音色や奏法、平調子による旋律などの特徴や奏法による響きの違いを感受しながら、どのように音楽をつくるか思いや意図をもっている【創一①】(観察・ワークシート) |
| まとめ<br>(5分) | ○本時の学習のまとめと次時の学習を確認する。   | ・本時の活動をまとめ、価値付ける。<br>・次時に行う発表会の予告をして、生徒の意欲を高める。   |   |

【資料】

○第2時間目、第3時間目に取り組むワークシート

- ・生徒の思考に沿い、スモールステップを踏みながら学習を深められるよう工夫して作成した。
- ・学習の流れが一目で分かるよう作成した。

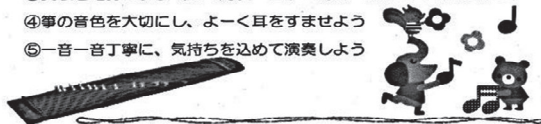
## 『さくらさくら』

～弾いて、つくって、発表しよう～

1年\_\_\_組 \_\_\_番 氏名\_\_\_\_\_

**1. 事を美しく奏でよう！！そのためには・・・**

- ①気持ちを整えよう（礼に始まり、礼に終わる）
- ②構え方を確認しよう（座り方・姿勢・手の位置・足の置き方など）
- ③奏法を確認しよう（爪の角度・右手の構え・爪の当てる位置など）
- ④事の音色を大切に、よく耳をすませよう
- ⑤一音一音丁寧に、気持ちを込めて演奏しよう



**2. チェックシートを活用して、『さくらさくら』を演奏しよう！！**

《構え方・弾き方チェックシート》

| 項目        | できている→○ |   | ちょっと心配→△ |   | できていない→× |  |
|-----------|---------|---|----------|---|----------|--|
|           | ①       | ② | ③        | ④ | ⑤        |  |
| 座り方       |         |   |          |   |          |  |
| 姿勢        |         |   |          |   |          |  |
| 左手、右手の位置  |         |   |          |   |          |  |
| 足の置き方     |         |   |          |   |          |  |
| 爪の角度      |         |   |          |   |          |  |
| 次の弦で爪を止める |         |   |          |   |          |  |

チェックしたのは\_\_\_\_\_です。


**3. 『さくらさくら』の前奏を演奏しよう！！**

前奏にはこんな奏法が！？奏法を聴いて、どんな感じがするかな？

|    |      | 奏法名               | 奏法 | どんな感じ？ |
|----|------|-------------------|----|--------|
| 右手 | 引き連  | 中指で、一から巾まで連続して弾く  |    |        |
|    | 流し爪  | 親指で、巾から一まで連続して弾く  |    |        |
|    | 合わせ爪 | 親指と中指で、同時に2本の弦を弾く |    |        |

◎前奏に使われる奏法以外に、どんな奏法があるか発見してみよう！！

**4. 桜のイメージを考えよう！！**



**5. 桜から連想される情景をペアで考えよう！！**

私たちのグループは、  
 を前奏にします！

○第3時間目、第4時間目（本時）、5時間目に取り組むワークシート

- ・個人の工夫を生かして、どのようにペアの創作を行ったか、「下書き」を書かせるなど、生徒の思考の変容を見取るために工夫した。

**6. 『さくらさくら』の前奏を個人でつくってみよう！！**

自分たちのイメージをもとに、2小節程度の前奏を考え、下の口に記入しよう。記入の仕方は自由ですが、自分ができるように書きましょう。

★どんな音色や奏法が自分たちの表現したいイメージに合うかな？

◎どんな音色や奏法を使って、桜のどういう情景を表現しましたか？前奏のアピールポイントを書きましよう☆

ポイント

**7. 『さくらさくら』の前奏をペアで完成させよう！！**

自分の作品、相手の作品の良いところを残しつつ、自分たちのイメージにより近づけるように、工夫してみましょう。

(下書き)

**《私たちの『さくらさくら』前奏》**

◎ペアでどんなところを工夫して、どう表現しましたか？また、前奏をつくってみて、どんなところに苦労しましたか？具体的に書いてみよう。

**8. 他のグループの発表を聴いて、良かったところを書いてみよう！！**

| グループ | 良かったところ |
|------|---------|
|      |         |
|      |         |
|      |         |
|      |         |
|      |         |



⑧ 実践の成果と今後の課題

【題材の目標に基づいた、高めるべき思考力・判断力の明確化及び言語活動と音楽活動との往還】

- ・言語活動によって高める力を明確にして実践に臨むことで、音楽的な力を高めるために言語活動を行うことができた。
- ・桜のイメージを深める活動を行わなかったため、生徒のイメージが「桜が咲く」か「桜が散る」に偏った。その結果、言語活動と音楽活動との往還の様態が、どのグループも似通ってしまった。高めたい思考力・判断力を明確にするだけでなく、生徒の学習を深める手だてを工夫する必要がある。

【生徒の思考力・判断力・表現力を育成する場面の授業計画への位置付け】

- ・ペアで互いの発想をヒントにイメージを膨らませ、共有し、相談しながら活動を進めることにより、一人では思考・判断や創作が難しいと感じている生徒も、無理なく取り組むことができていた。

【学習過程の見取りに基づく適切な価値付けや具体的な助言の実施】

- ・スモールステップで構成したワークシートを活用することで、生徒が感じ取ったことを自分なりの言葉で表現し、生徒の音楽的な感受がどのように変容していくかという学びの過程を記録に残すことができた。ワークシートの記述と観察とを合わせて、生徒の思考・判断がどう変容したかを見取することは今後の課題である。
- ・視点を明確にして観察し、評価がCになりそうな生徒に適切な指導や助言を行うことで、生徒がつまづいている状況を改善する指導だけでなく、生徒のつまづきの原因を踏まえた指導を行うことができた。

(4) 高等学校実践事例

① 題材名 沖縄音階で旋律をつくろう（高等学校第1学年 音楽I）

② 題材の目標

リズム、速度、旋律に関心を持ち、それらの働きを知覚し、特質や雰囲気を感じしながら、音楽を形づくっている要素の働きを変化させることによって生み出される音楽の表情や雰囲気などと、グループのイメージとを関連させながら、音楽表現を工夫して音楽をつくる。

③ 学習指導要領との関連

【A表現】(3)創作イ「音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって音楽をつくること」

(3)創作エ「音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じて音楽をつくること」

[音楽を形づくっている要素] リズム、速度、旋律

④ 題材の評価規準

| 音楽への関心・意欲・態度                              | 音楽表現の創意工夫   | 音楽表現の技能   |
|---|---|---|
| ①リズム、速度、旋律の働きに関心を持ち、創作の学習に主体的に取り組もうとしている。 | ①旋律、リズム、速度を知覚・感受しながら、要素の働きを変化させることによって生み出される音楽の表情や雰囲気などとイメージとを関連させながら音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて表現意図を持っている。 | ①沖縄音階で旋律をつくり、表現するために必要な創作の技能（課題に沿ったリズム、速度の変化、記譜の仕方など）を身に付け、創造的に表している。 |

⑤ 指導観

ア 題材観

生徒が高等学校で初めて行う創作活動として、沖縄音階による旋律創作に取り組む。沖縄音階は、生徒が日常聴いているポップス音楽等にも活用されており、創作を難しいと感じている生徒にも親しみやすい。また、個に応じた指導にも適した題材であると考え、設定した。


なお、この題材で育む思考力については、「グループのイメージを効果的に表現するために、リズムを変化させたり速度の設定を考えたりして試行錯誤する力」、判断力については、「旋律のリズムと速度を工夫して、こんな情景を表したいという表現意図をもつ力」と捉えた。

イ 生徒観

年度当初のアンケートで創作について質問した結果、小・中学校での経験の差異が大きいことが分かった。また、半数以上の生徒が、「難しそうだ」等と答えた。そのため、歌唱や器楽、鑑賞と並行して、創作に必要な内容を、常時活動として少しずつ授業に取り入れてきた。

本授業ではグループでの協働学習を取り入れることにより、自分一人で考えるだけでなく、他者の考えも聞きながら表現のアイディアを交流させ、試行錯誤しながら一つの作品をつくり上げる楽しさと喜びを感じさせたい。

⑥ 題材の指導計画（全3時間扱い）

| 時         | 過程   | ◆ねらい ○学習内容 ・学習活動  | 評価規準（評価方法） |
|-----------|--|---|------------|
| 1         | ◆旋律、リズム、速度の働きについて学ぶ。<br><br>【習得】<br>○音符・休符について復習する。<br>○音階、リズム、速度について学習する。<br>・キーボードで沖縄音階の構成音を学ぶ。<br>・「島唄」の冒頭部分のリズムや速度を変えて比較する。<br>ア 原曲<br>イ リズムを変化させたもの（  )<br>ウ 速度を変化させたもの（速く／だんだん遅く／だんだん速く）<br>・それぞれについてどのように感じたかをワークシートに記入し、グループで共有して、発表する。<br>・沖縄音階による旋律、リズムや速度の働きについてまとめる。                          | リズム、速度、旋律の働きに関心を持ち、創作の学習に主体的に取り組もうとしている。【関-①】（観察・ワークシート）  |            |
| 2<br>(本時) | ◆旋律、リズム、速度を工夫し、イメージにふさわしい表現を試行錯誤しながら創作する。<br><br>【活用】<br>○沖縄音階を復習する<br>・キーボードで沖縄音階を確認する。<br>○グループで「沖縄」から想像するイメージを話し合い、場面を想定する。<br>・「沖縄」をテーマにグループで情景をイメージし、ワークシートに記入する。<br>・イメージした場面を表現するために、どのように工夫したいか個人で考え、ワークシートに記入する。<br>○グループで旋律創作を行う。<br>・個人で考えた工夫を共有し、キーボードを使って試奏する。どんな効果が得られたか、ワークシートに記入する。沖縄音階（音域はg～c <sup>3</sup> ）を用い、4分の4拍子、2小節で創作する。<br>・試奏した中から、グループで一番効果的だと考えたものをワークシートに記入する。 | リズム、速度、旋律の働きに関心を持ち、創作の学習に主体的に取り組もうとしている。【関-①】（観察）<br>旋律、リズム、速度を知覚・感受しながら、要素の働きを変化させることによって生み出される音楽の表情や雰囲気などとイメージとを関連させながら音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。【創-①】（観察・ワークシート） |            |
| 3         | ◆音楽表現（リズム、速度）を工夫して創作した音楽を、必要な技術を身に付けて表現する。<br><br>【まとめ・振り返り】<br>○作品発表会をし、互いの作品を聴き合いながら、工夫を共有し、よさを見付ける。<br>・前時に創作したグループの作品を楽譜に書いて、確認する。<br>・楽譜を書くことが難しいグループは、教師が助言しながら取り組む。<br>・グループごとに、リコーダーやキーボードで練習する。<br>・どんなところを工夫したか発表し、演奏する。   | 沖縄音階で旋律をつくり、表現するために必要な創作の技能（課題に沿ったリズム、速度の変化、記譜の仕方など）を身に付け、創造的に表している。【技-①】（観察・チェックシート）   |            |

⑦ 本時（全3時間中の第2時間目）

○本時の目標

「沖縄」から思い浮かぶキーワードや場面をイメージし、沖縄音階を用いて、場面にふさわしい旋律やリズム、速度を工夫しながら、表現意図をもって旋律を創作する。

○本時の展開

|              | ○学習内容 ・学習活動   | ・指導上の留意点  | 評価規準（評価方法）  |
|--------------|---|---|---|
| 導入<br>(10分)  | <p>○本時の学習への見通しをもつ。</p> <p>○沖縄音階を復習する。</p> <p>・キーボードで構成音を確認する</p>  | <p>・本時は「旋律、リズム、速度を工夫し、どのように音楽をつくるか表現意図をもつこと」、「グループで互いに意見を交流させ、イメージをもって創作すること」が目標であることを伝える。</p>              |   |
| 展開<br>(30分)  | <p>○グループで「沖縄」から想像するイメージを話し合い、場面を想定する。</p> <p>・キーワードを出し合って「沖縄」のイメージを共有し、場面を想定する。</p> <p>・イメージした場面をどのような表現方法を用いて工夫したいか、個人で考えワークシートに記入する。</p> <p>○グループで旋律創作を行う。</p> <p>・沖縄音階（音域はg～c<sup>2</sup>）を用いて、4分の4拍子、2小節の創作を行う。</p> <p>・個人で考えた表現方法をキーボードで試奏し、どのような表現方法がふさわしいかグループの考えをまとめ、ワークシートに記入する。</p> | <p>・話し合いを観察し、必要なグループを支援する</p> <p>・どのような音を並べたり、リズムや速度の設定を工夫したりすれば、イメージに合った表現ができるか、グループで協働しながら試行錯誤して創作する。</p> | <p>リズム、速度、旋律の働きに関心を持ち、創作の学習に主体的に取り組もうとしている。【関-①】（観察）</p> <p>旋律、リズム、速度を知覚・感受し、要素の働きを変化させることによって生み出される音楽の表情や雰囲気などとイメージとを関連させながら音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。【創-①】（観察・ワークシート）</p> |
| まとめ<br>(10分) | <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>・できたところまでグループで演奏し、発表する。</p>  | <p>・各グループの良かったところを価値付け、本時の学習をまとめる。</p>  |   |

【資料】

○第1時間目に取り組むワークシート

- ・生徒に書かせる文章の文末を「(どのような)感じ」、「(どのような)感じに変わった」のようにあらかじめ書いておくことで、グループでの意見が出やすいようにし、他グループとの比較が容易にできるようにした。

音楽Ⅰ 授業プリント

### 「沖縄音階で旋律をつくろう」①

1年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

★ 目標 3 次

- ① 「音楽を形づくっている要素」とは何だろうか？ 考えてみよう。
- ② 「鳥明」の冒頭部分のリズムや速さを変化させると、どのように印象が変化するだろうか。グループで話し合っ、発表してみよう。

① 音楽を形づくっている要素とは？ (主なもの)

**音色**

声や楽器の音色、身の回りの音など

拍や拍子、さまざまなリズム、間 など

音のつながり方、音階、調など

さまざまな速度の設定やその変化など

**強調**

さまざまな強調の設定やその変化など

② 『鳥明』の冒頭部分を「音楽を形づくっている要素」を変化させて演奏します。それぞれどのように聞こえるだろうか？ 感じたことを書いてみよう。

【原曲の楽譜】

★ 「リズム」と「速度」に注目して、どんな感じに聞こえたか、気づいたことを書き、グループで意見を交換し、まとめて発表しよう！

原曲の印象

自分

感じ

①

感じ

音楽Ⅰ 授業プリント

★ 原曲と比較して、どのように感じが変わったか、グループで意見を交換し、まとめて発表しよう！

【リズムを変化させてみる】

A) の部分を  に変える

B) を 多く使うと・・・？

①

感じが変わった。

②

感じが変わった。

【速度を変化させてみる】

原曲より速い

①

感じが変わった。

だんだん遅くしていくと・・・？

①

感じが変わった。

②

感じが変わった。

◆ 他のグループの発表内容で、「いい意見だな」「参考にしたい！」と思ったことをメモしよう！

◆ 沖縄音階について

種類・・・ 音から構成されている \_\_\_\_\_

○第2時間目（本時）に取り組むワークシート

- ・ スモールステップを踏みながら創作に取り組めるように構成した。
- ・ 左ページではグループでまとまった意見を基に自分の考えを書かせることで、次の活動にスムーズに移れるよう配慮した。
- ・ 右ページでは、左ページを基に互いの意見を交流させ、試奏できるようにした。

音楽Ⅰ 授業プリント

### 「沖縄音階で旋律をつくろう」②

1年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

★ 目標 3 次

- ① グループで「沖縄」のイメージを共有し、場面を想定してみよう。
- ② 場面に合ったリズムの選択や速度の設定を、グループで話し合っ決めていこう。
- ③ 何度も演奏して確認し、いろいろな表現方法を追求しよう。

① 曲のイメージ・・・グループで出た意見を、言葉にしてメモしよう。

【「春」から連想するキーワード】 (グループで出た意見を書き、採用するものに○)

暖かい / 桜 / 春物 / 入学 / 夜明け / 花見 / 新学期 / 雪解け / 新緑  
 ポカポカ / うきうき / 出会い / 別れ

キーワードからイメージした場面

夜、風に吹かれ、たくさんの桜の花びらが舞っている様子。

◆ 【「沖縄」から連想するキーワード】 (グループで出た意見を書き、採用するものに○)

◆ キーワードからイメージした場面

② イメージした場面を、あなただったらどのようなことに工夫して表現したいですか？  
**自分の考え**を書いてみよう。(拍子は『4分の4拍子』『2小節』を創作します)

◆ \_\_\_\_\_ 様子を表現するために、

**速度** ・ **リズム** (1つ選んで○) を工夫したい!!

(音楽を形づくる要素)

音楽Ⅰ 授業プリント

② 曲のプラン・・・話し合ったことを、言葉にしてメモしよう。

③ どんなリズムを使い、速度を工夫して、イメージした場面を表現したいですか？  
 先程の自分の考えを伝え合い、グループで意見をまとめ、キーボードで試奏してみよう。

◆ 実際にキーボードを使って、試した表現方法を書いてみよう。

| 要素  | 曲のアイデア? | 具体的に | 試してみたら・・・                                   |
|-----|---------|------|---|
| リズム |         |      | 16分音符の細かいリズムを使うと、花びらが風に吹かれて、あちこち舞う様子が表現できた! |
| リズム |         | グループ |   |
|     |         |      |   |
| 速度  |         | グループ |   |
|     |         |      |   |

◆ まとめ

【「春」からイメージした場面】

夜、風に吹かれ、たくさんの桜の花びらが舞っている様子。

|     |   |
|-----|---|
| リズム | 細かいリズム (  ) を使い、たくさんの花びらが舞っている様子を表現しました。      |
| 速度  | 風で吹き上げられ、その舞ひらから落ちる花びらの様子を、速度をだんだん遅くして表現しました。 |

◆ まとめ ◆ グループで工夫したことをまとめ、発表しよう!

【「沖縄」からイメージした場面】 \_\_\_\_\_ 様子

|     |  |
|-----|--|
| リズム |  |
| 速度  |  |

## ⑧ 実践の成果と今後の課題

### 【題材の目標に基づいた、高めるべき思考力・判断力の明確化及び言語活動と音楽活動との往還】

- ・ 高めるべき思考力・判断力を意識して指導する中で、グループで話し合った内容を個人に還元し、自分ならどのように工夫したいかを考えさせた。普段はなかなか自分の考えを表現できない生徒も、グループでの協働学習によって得るものがあり、自分なりの意見をまとめることができた。また、生徒の思考力・判断力を高めるという観点から、言語活動と音楽活動との往還を図ることができた。
- ・ 個人で考えた表現方法を共有し試奏する場面では、指導者の示唆の方法によって生徒が大きく影響されていた。題材の目標から明確にした、高める思考力・判断力の内容を、助言や示唆の方法につなげることが必要であると感じた。

### 【生徒の思考力・判断力・表現力を育成する場面の授業計画への位置付け】

- ・ 音楽を形づくっている要素の働きを体感する学習を習得に位置付け、習得を支えとして活用の過程で言語活動を取り入れながら創作を行ったことで、生徒は実感を伴いながら音楽をつくる学習を進めることができた。
- ・ 「振り返り」として発表会を行ったが、学習の成果を共有し、次の学習への動機付けとするために、より一層充実することが必要であった。

### 【学習過程の見取りに基づく適切な価値付けや具体的な助言の実施】

- ・ ワークシートは授業の流れが一目で分かるよう、生徒の思考に沿って作成した。おおむねスモールステップを踏んで考えられるよう作成できたが、キーワードから場面をイメージする部分でつまづく生徒がおり、改善が必要であった。スモールステップによってワークシートを構成することについては、生徒の思考・判断の変容を見取るために有効であった。
- ・ 視点を明らかにした観察によって、評価がCになりそうだと判断した際、言葉にすることが難しい生徒には、「大きい」「小さい」、「鋭い」「やわらかい」など、反対の意味をもつ言葉を対比させた支援カードから選ばせることで、支援を行った。その結果、言葉にすることが難しくても、支援カードから選択することで、自分が知覚・感受したことを適切に表現することができた。

## VI 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

#### (1) 題材の目標に基づいた、高めるべき思考力・判断力の明確化及び言語活動と音楽活動との往還

本研究では、題材の目標に基づいて、高めるべき思考力・判断力を明確にし、その上で授業計画を立て、各学習活動を構想した。それにより、指導者は、どのような音楽的な力を高めるのかを常に意識しながら授業を行うことができ、生徒のより充実した学習に結び付けることができた。

また、思考力・判断力を効果的に高める授業において、音楽活動と言語活動の往還と、個人の学びと協働の学びの往還が効果的であることも確認できた。音楽活動を行わない思考や、個人だけの思考ではなく、音楽を伴いながら言語活動を行い、他者と共有する中で、試行錯誤し、考えや理解がより深まっていくことが明らかとなった。

#### (2) 生徒の思考力・判断力・表現力を育成する場面の授業計画への位置付け

本研究では、「習得・活用・振り返り」の題材計画の下、生徒の思考力・判断力を高めるた



めの具体的な活動を意図的・計画的に授業計画に位置付けた。習得の過程における知覚・感受を支えとしながら、活用の過程で生徒に音楽への思いや意図をもたせ、試行錯誤をさせる場面を指導者が適切に設定することで、生徒が主体的に試行錯誤する学習につなげることができた。

### (3) 学習過程の見取りに基づく適切な価値付けや具体的な助言の実施

本研究では、生徒の思考に沿ってスモールステップを重ねる授業やワークシートを工夫し、観察の視点を明確にして、生徒の思考・判断の変容を見取り、思考力・判断力・表現力が十分に身に付いていない生徒のつまずきの原因を明らかにし、適切な指導や助言に生かした。

それにより、生徒がどのようなことを考え、実行しようとしているか、また、授業の中で生徒の気持ちがどう動いたか、生徒一人一人の学習過程を細かく見取ることができた。そして、見取りを生かして、今後どのような指導や助言が必要か考え、手だてを講ずることで、生徒の思考力・判断力・表現力を効果的に高めることができた。

## 2 研究の課題

### (1) 題材の目標に基づいた、高めるべき思考力・判断力の明確化及び言語活動と音楽活動との往還

本研究では、その題材で高める思考力・判断力を明らかにして実践研究を行ったが、具体化した思考力・判断力を、指導者がどのように生徒の助言につなげていくか、具体的にどのような手だてで生徒の学習を深めるかを明らかにすることは今後の課題である。また、言語活動と音楽活動との往還を図る手だてや、生徒の試行錯誤を促す具体的な方法についても、継続して研究が必要であると考えている。

### (2) 生徒の思考力・判断力・表現力を育成する場面の授業計画への位置付け

本研究では「習得・活用・振り返り」という題材計画の類型を提案した。「習得」、「活用」については研究を深めることができたが、「振り返り」については、学習成果の発表を相互に行う活動を設定するに留まった。「振り返り」の過程において、どのように、また、どの程度学習を定着させたり全体で共有したりできるか深めることは、今後の課題である。

### (3) 学習過程の見取りに基づく適切な価値付けや具体的な助言の実施

具体的な課題として、生徒の実態に応じた丁寧なスモールステップを設定することや、ワークシートの構成を、生徒自身が学習を振り返り、自分の考えをまとめられるようなものにする事などが挙げられた。

また、生徒の思考に沿ったワークシートの作成は成果が感じられたが、それと観察とを合わせて、生徒の思考・判断の変容を詳細に見取ることについては、課題が残った。ワークシートを工夫しても、グループ活動やペア活動での生徒の発言を全て見取することは難しい。生徒が試行錯誤する場面や、音楽を伴った言語活動を行う場面において、①指導者が、何を観察し、どのように見取るのか②観察の見取りとワークシートの見取りとを、どのように関連させて生徒の変容を捉えるのか③観察とワークシートの見取りを生かして、どのように生徒の力を伸ばすための具体的な助言につなげていくことができるか、この3点について、今後も検討を続ける必要がある。

## 平成28年度 教育研究員名簿

### 中・高等学校 合同 ・ 音楽・芸術（音楽）

| 学 校 名         | 職 名  | 氏 名   |
|---------------|------|-------|
| 千代田区立九段中等教育学校 | 主任教諭 | 松原さとみ |
| 北区立赤羽岩淵中学校    | 主任教諭 | ◎近藤彩子 |
| 昭島市立清泉中学校     | 主任教諭 | 及川由香  |
| 東京都立葛西南高等学校   | 主任教諭 | 吉野佳代子 |

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育経営課  
指導主事 澁谷 創平

平成28年度

教育研究員研究報告書

中・高等学校 合同・音楽・芸術（音楽）

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成28年度第142号〕

平成29年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 株式会社オゾニックス